稲刈り進捗状況

～庄内平野の稲刈り模様～

鳥海山に初冠雪、白鳥が飛来、冬の足音が聞こえ始めました。
今日は久しぶりに晴れたので、稲刈りの状況を見に出かけました。

西郷北部地区の稲刈り進捗状況　写真右奥が鳥海山

大区画ほ場の刈り取り作業
短辺60m　長辺250m　1.5haの大区画ほ場。写真中央の小さな点がコンバイン。

秋の天気は変わりやすく、田んぼがなかなか乾きません。
例年より作業が遅れているようですが、農家の方々は、天候をみながら、適期刈取りのため頑張っています。

家根合にて魚の学習会

～たくさん捕まえたよ～

10月11日（水）、庄内町家根合の家根合揚水機場で魚の学習会が行われました。
庄内町立余目第一小学校の4年生38名を対象に、地域の方々と最上川土地改良区の協力により、毎年実施されています。

泥で滑ります。ケガをしないように。

両方から追い込んで捕まえる

いっぱい捕まえたよ

今回捕まえたのは、50cmのコイをはじめ、アユ、ウグイなどの魚類が14種、その他モクズガニやドブガイなどが7種の計21種。
このあたりには生息していなかったオイカワやタモロコ。絶滅危惧種のウケクチウグイやカワヤツメも捕まえることができました。

種類と生態を説明

最上川土地改良区の後藤さんが、揚水機場の役割とファームポンドに入ってきたこれらの魚は、どこからやってくるのか、それぞれの魚の特徴について、子どもたちに説明しました。
泥んこになるのもかまわず、一生懸命捕まえた子どもたちからは、「たくさんの魚を捕まえることができた」「いろいろな魚の名前を覚えることができた」「大きな魚を見れてよかった」など大満足の感想を聞くことができました。

子どもたちの生き生きした笑顔を見ることができて、関わった大人もいい経験をさせてもらいました。

大鳥ダム 冬の準備

～見事な紅葉と輝く水面～

10月17日（火）、庄内赤川土地改良区と因幡堰土地改良区が共同管理する大鳥ダムの雪囲い作業に同行しました。

最寄りの道路から片道3時間の道のり

大鳥ダムは、約1万ヘクタールの受益を補水する基幹水利施設のひとつです。
毎年6月から10月までの5か月間、月に1度、徒歩で行き来して点検・管理を行っています。

ゲート手すりの取り外し

ひと足早く冬を迎える大鳥池。
見事な紅葉と輝く水面を見ることができました。

各地で事業をPR

～知っていただくことの大切さ～

10月21日(土)、22日(日)の両日、鶴岡市小真木原公園において、「つるおか大産業まつり」。
10月22日(日)、酒田市みなと市場において、「酒田市農林水産まつり2017」がそれぞれ開催されました。

つるおか大産業まつりでは、東北農政局赤川農業水利事業所とあさひ農地保全事業所の紹介ブースで、事業の目的や地すべりのメカニズムなどをお客さまに説明していました。

事業目的のパネルを展示

地すべりのメカニズムを模型で説明

酒田市農林水産まつりは、台風21号が接近する悪天候にもかかわらず、たくさんのお客さまでにぎわっていました。

農業用施設の機能をPR

クイズとぬり絵のコーナー

自分たちの住む地域で、どんな事業がどんな目的で実施されているのか。農業用施設は、どんな役割を持っているのか。
広く知っていただき、身近に感じていただくことも、私たちの仕事のひとつです。

元気な職場をつくるには

～ケーススタディ研修～

10月25日(水)、26日(木) の両日、庄内総合支庁農村計画課、農村整備課の職員を対象に、「元気な職場をつくるケーススタディ研修」を実施しました。
組織で働く私たちが、“県民に信頼される県職員であるために”ということを改めて意識し、自らが過ごしやすい職場にすることが、いい仕事を生み出すことにつながる、と考え企画したものです。

元気な職場をつくるために、自分ができることは何か・・・職場で起こりがちな事例について、グループごとに登場人物の課題を整理し、課題解決に向けた対応策を提案する、という流れで研修を進めました。

グループごとに課題を整理→対応策を提案→決意表明（キャッチフレーズを考えよう）

最後に、登場人物の課題を職場における立場ごとの課題に置き換え、その対応策を整理。「私たちは～職場にします」というキャッチフレーズを考え、各班が元気な職場にするための決意表明をしました。

各班が話し合った内容を発表

課題解決のための対応策は、ひとそれぞれ。自らの考えをグループで伝えあい、それを参加者全員で共有することで、みんなの対応策として、整理されていきました。
今回の研修手法は、初めての試みでしたが、参加者それぞれに発見や気づきがあったようです。

研修内容は、ドキュメントとして整理しました。
振り返り、改めて意識する、それが大事ではないかと思います。

元気な職場にするのは、私たち自身。私たちの意識が職場、仕事を変えていきます。

『農楽里norari』vol.26配信

～2017秋号　配信しています～

元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい･･･『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

秋号は、10月27日に山形県HPにアップされました。
やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里（norari）」秋号の詳細（PDF:3.3MB）
http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html

今回の特集は、ふるさと活性化仕事人。
県内には、ふるさと活性化の仕事人ともいえる“農村環境保全指導員”が44名。知事から委嘱されています。
農村環境保全指導員は、地域住民との共同活動のリーダーとなり、人と地域のつながりや、都市との交流、地域行事の盛り上げなど、地域活動の推進のため活動されている方々です。
庄内からは、鶴岡市三瀬地区で活動する鈴木正さん。子どもからお年寄りまで、活動を通して人と地域をつなぐ取組みを紹介しています。
ほかにも、やまがたの食は「庄内柿」。通常2ページから4ページに拡大し、樹上脱渋柿 柿しぐれ、干し柿と新たな加工の取組みを紹介しています。
ぜひご覧ください。

松ヶ岡 秋の収穫祭

～庄内オーガニックマルシェ～

10月29日(日)、農村環境保全指導員の粕渕朋美さん主宰の『親と子と環境に優しい』とことんこだわった庄内オーガニックマルシェ実行委員会及び松ヶ岡の芋煮会実行委員会主催の「松ヶ岡 秋の収穫祭」が鶴岡市羽黒町松ヶ岡において開催されました。

粕渕さんのいっぷくカフェ、同じく農村環境保全指導員の鈴木正さん（フォワードさんぜ）の薪割り体験などの出店もあり、台風22号が迫るなかではありましたが、お客さまでにぎわいを見せていました。

「あったまりますよ」いっぷくカフェ

薪割り体験「よっこいしょ～」

今回のテーマは、「種～種を受け継ぐ～」。
たくさんの企画の中で、辰巳よしこ先生の命のスープ作り～片倉シェフが作り出す大地の恵～に参加しました。
片倉シェフは、辰巳よしこさんと出会い、食の大切さを再認識され、スープを通して食の大切さを伝える活動をされています。
手間を惜しまず、最後の1滴まで大事に、素材の味を引き出す。丁寧な調理が印象的でした。

片倉シェフの調理

根菜のオーブン焼き

玄米スープ

かぶのスープ

心と身体にしみわたる･･･ゆったりとした時間を過ごすことができました。

事務処理・技術研修会

～多面的機能支払を上手に活用しよう～

10月31日(火)、庄内町文化創造館 響ホールにおいて、最上・庄内地域の活動組織役員、各市町村担当者を対象に平成29年度多面的機能支払に係る事務処理・技術研修会が開催されました。
多面的機能支払取組み組織における事務・組織運営及び施設の機能診断・補修技術の能力向上を目的としたもので、今回は、主に水路目地補修技術や安全対策について学ぼうと、約230名が集まりました。

現存施設を長く、効果的に使い続けるためには、適時的確な補修を行うことが必要です。
定期的な点検・機能診断により、優先度を見極めながら、現地の状況や管理者の意向、費用を検討したうえで、組織の合意のもとに実施しましょう。

長寿命化に向けた補修技術の概要

水路目地補修をやってみよう

補修費用を抑えつつ、自分たちの施設を自分たちで維持管理していくには、直営施工が一番！と考えがちですが、重機を使用したり、測量等を必要とするような施設については、外注する、というのもひとつの方法です。
自分たちの思いをしっかり伝えるために、草刈りなどの準備工を直営で行うなど、積極的に受注者と関わりながら、不明なところは市町村担当者に確認、相談して進めましょう。

工事の外注の流れ

気持ちに余裕をもって安全管理

どんな方法で施工する場合も、活動における安全対策は十分に。
活動組織の皆さんが、組織の活動について改めて考え、検討し、活動することで、地域資源が守られています。

まつりで活動紹介

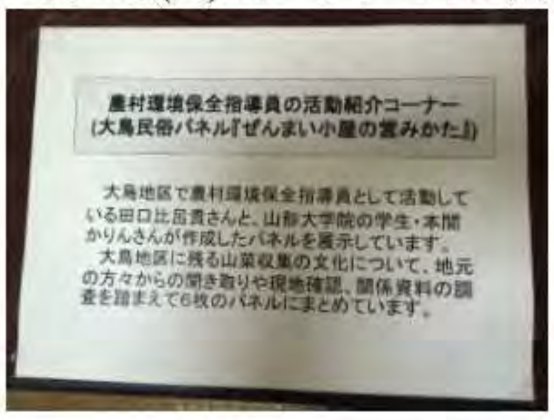
～農村環境保全指導員の活動14～

農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

11月3日(祝)に開催された、あさひ産業文化まつりにおいて、朝日地域の田口比呂貴農村環境保全指導員の活動紹介コーナーが設けられました。

まつり入口ゲート

朝日中央コミュニティセンター(すまいる)に企画展示されたパネルは6枚。
6月30日(金)のトークイベントお披露目された『ぜんまい小屋の営みかた』。



展示状況

熱心に見入るお客さま

ちょっと昔の大鳥地域の暮らしについて、たくさんの方々に知っていただく機会になったようです。
今後は、山形大学農学部にも展示される予定です。

地域の恵み

～越沢新そばまつり～

11月4日(土)、5日(日)の両日、越沢自治会が運営する まやのやかた において、『越沢新そばまつり』が開催されました。

今年も盛況『越沢新そばまつり』

抽選で豪華賞品が当たるとみんなで万歳

特産品の直売も大賑わい

特別メニューでおなかいっぱい

在来作物「越沢三角そば」「でわかおり」に比べ粒が小さく、角ばっている

越沢三角そばは、越沢集落の数軒の農家が100年以上前から栽培してきたと伝わるもの。
昨年10月、山形大学農学部の江頭教授の調査で在来作物と確認されています。

そば打ち名人の技に見入る

台所も大忙し

昨年度、越沢自治会では、地域おこし協力隊を含めた住民20名による「越沢活性化委員会」を立ち上げ、越沢のめざすべき将来像「越沢活性化ビジョン」をまとめ上げました。
その中に、越沢三角そばのブランド化推進と生産拡大の計画も盛り込まれています。

四季折々の自然の恵みと多様な資源を強みに、これまで地域を支えた方々への感謝と次世代につないでいこうという地域の方々の思いが伝わる「越沢新そばまつり」となりました。

種を守りぬく

～一霞かぶ祭り～

焼畑あつみかぶ原産の地 一霞（ひとかすみ）。
11月5日（日）、一霞公民館をメイン会場に「一霞かぶ祭り」が開催されました。
本場の生かぶが買えるのはここだけとあって、毎年多くの方々が10kg単位で大量購入しています。
開場から1時間経過した11時、用意した生かぶは残すところ数袋となりました。スタッフの方々はようやく一息つけたようです。

ピークが過ぎてホッとしている生かぶ売り場

直売所も売れて品物がなくなってきた

品評会で生産技術の研鑽を図る

一霞にとって、あつみかぶは地域活性化の源。
あつみかぶの種子を守るために、一霞地域にはアブラナ科の作物は植えない、とのこと。
種を守りぬくために、地域が一つになっています。

外来種を駆除

～農村環境保全指導員の活動状況15～

農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

11月5日(日)、庄内町立川地域の小野寺博農村環境保全指導員の活動に行ってきました。
今回は、『荒鍋内川農村公園の外来種駆除』。

地域の方々が協力しながら、網で追い込んでいく　見守る小野寺指導員

外来種以外は川に戻す　投網も使って捕まえる

外来種の駆除は、地域の環境を守る活動のひとつとして、毎秋、実施してきました。今年で10年になります。
例年10匹以上のブラックバスやブルーギルを捕獲してきましたが、今年は大物のブラックバスを含めて5匹。捕獲数の減少は、活動の成果といえそうです。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

給食で召し上がれ

～庄内町立余目第一小学校へめだかの里米贈呈～

9月27日（水）に、庄内町立余目第一小学校4年生が稲刈り体験をしためだかの里米。
自然乾燥し、精米されて、11月7日（火）、余目第一小学校へ贈呈されました。

今年もケガなく楽しく作業ができてよかったです

みんなでいただきます

家根合地域の活動は、余目第一小学校とNPO法人家根合生態系保全センターが企画運営しているものです。
今年も、子どもたちと地域の方々が、関わり合いながら充実した活動ができました。

子どもたちが地域の自然を守りたい、という思いから始まった環境保全活動や農業体験は、余目第一小学校の先生方や地域の方々の理解と協力があって、継続されてきました。
これからも子供たちの思いを受け止めた活動を続けることができるよう、県ができることをお手伝いしていきます。

槇島ほうきづくり

～手作りで価値を実感～

カラフルなミニほうき。これは、槇島(まぎしま)ほうきのミニほうきです。
"槇島ほうき"は、その昔、庄内町槇島集落で冬期間の収入源として、作られてきました。
高度成長とともに、掃除機が使われるようになり、ほうきの需要は減っていきましたが、「槇島ほうき手作りの会」が組織され、代々受け継がれてきた伝統を守ろうと、様々な活動を行っています。

11月11日(土)、庄内町余目第3公民館において、「槇島ほうき応援隊 ほうきづくり」が行われました。

応援隊の方々は、ほうきもろこしの定植から刈取りまでの作業を地域の方々と一緒に体験してきました。本日は、お待ちかねのほうきづくり体験。
強風の中、遠くは山形市から10名の応援隊が集まりました。

槇島ほうき手作りの会の名人たちに教わる応援隊の皆さん

短時間できれいに完成できるように、手作りの会が毛先をそろえるなどの下準備をした束に思い思いのカラフルな糸を巻いて仕上げていきます。
作業開始から2時間30分ほどで、心を込めたミニほうきが完成しました。

できた～ みんなで記念撮影

作業のあとは、こちらも手作りの昼食。たくさんの"お母さんの味"をいただきました。

昼食をいただきながら、応援隊の方々から、この1年の感想をひと言ずつ。
学びが多く、貴重な体験ができたという感謝の気持ち、また来年も参加したいという意欲あふれる感想をたくさん伺うことができました。

ほうきもろこしの種を守り、材料を確保するために苗を管理し、丁寧に収穫する・・・たくさんの手をかけてほうきができることを知り、体験することで、『槇島ほうき』の価値を実感していただけたようです。
槇島ほうき手作りの会の方々は、本日の活動以外にも、山形大学農学部、庄内総合高等学校、庄内農業高等高校、余目第一幼稚園などへの出前授業も行っています。

打ちたて茹でたて

～水土里ネットいなば『収穫感謝祭』～

11月12日(日)、鶴岡市藤島地区地域活動センターにおいて、水土里ネットいなば主催の田んぼの学校『収穫感謝祭』が行われました。
田植え体験から始まった水土里ネットいなば『田んぼの学校』は、本日の収穫感謝祭が今年度最後のイベントです。

2回に分けてそば打ち体験

仕上がりを決める水回し

ひとつにまとめてコネコネ そばのいい香り

厚さ2ミリメートルを目標に延ばす

同じ太さに切る

できた！いただきます

今回も50名ほどの参加者が、そば打ち体験を楽しみました。
今年の庄内地域の作況指数は、10月15日現在100(平年並み)。登熟期の8月中下旬と10月上旬の低温、日照不足で9月15日現在の作況指数101から下方修正されています。
冨樫理事長の話では、強い風を受ける平野部は収量があがらなかったとのことでしたが、田んぼの学校の体験田は、建物の陰にあるためか、5アールで297kgを収穫することができたそうです。

今年も、農地、地域を守るために、汗を流している農家のみなさん、施設を守る改良区の方々に感謝して。
また来年度、田んぼの学校で元気にお会いしましょう！

目地補修技術研修

～酒田市主催　多面的機能支払活動組織向け研修～

11月15日(水)、酒田市平田農村環境改善センターにおいて、目地補修工法の技術研修が実施されました。
本研修は、多面的機能支払により水利施設の保全管理に取り組んでいる活動組織が、業者への工事発注による施工だけでなく、"自分たちができることを自分たちで"やっていくための方法のひとつとして、酒田市が主催しました。
鶴岡市、庄内町から関心のある活動組織も加わり、75名が集まりました。

材料と施工方法、施工例についての説明

整備から20年以上経過し、目地の破損がみられるようになってきた水路。素人でも施工しやすい材料を使って、自分たちで補修する方法を学びました。

2～3人のグループに分かれて、目地補修の実習を行いました。

1.目地の清掃　2.正しい計量で練り上げ　3.塗布作業

4.左官コテで仕上げ　5.出来上がり

水路断面により異なりますが、1か所あたり20～30分で仕上がりました。
小雨の降るなかでの作業となりましたが、水路が濡れていても施工できるとあって、モルタルの硬さを確かめながら、真剣に取り組んでいました。
同研修は、明日も松山農村環境改善センターで行われます。

冬は、労働災害が発生しやすい季節です。
いつもの慣れた作業でも、気温の低下が身体に与える影響は大きいと言われています。
組織名が記載されたヘルメットをかぶり、安全対策は十分に。
活動組織の皆さんが、組織の活動について改めて考え、検討し、活動することで、地域資源が守られています。

非かんがい期に点検

～導水幹線トンネル現地調査～

11月22日(水)、最上郡戸沢村草薙(くさなぎ)にある草薙頭首工から上郷揚水機場までの導水幹線トンネルの点検を行いました。

取入口　鋼材のザビ具合を確認

いよいよ導水幹線トンネルの内部へ。
暗闇の中、懐中電灯やライト等で照らしながら、トンネル内壁等の劣化箇所の状況を写真に記録しました。

内壁浸食部分の深さを測定

流量計の状況

トンネル出口に向かい、水深が深くなる

導水幹線トンネルの長さは、およそ5.2㎞。2時間30分ほどかかり、ようやく上郷揚水機場に着きました。
草薙頭首工は、国営最上川下流右岸地区農業水利事業により整備され、県が管理している施設です。
導水幹線トンネルの点検は、大町溝土地改良区と日向川土地改良区が共同で毎年実施しています。
今回の点検で確認された不具合部分は、その状況を毎年見守りながら、優先順位をつけ、補修等により施設の長寿命化を図ります。

お疲れ様でした

非かんがい期に入り、来春の用水確保に向けた点検作業が庄内各地で行われています。
土地改良区が適時的確な施設の点検を行うことにより、庄内平野は守られています。

計画地区を調査

～ほ場整備計画箇所を試掘～

11月21日(火)～12月上旬にかけて、ほ場整備を計画している地区で、土壌調査を行っています。

豊浦地区の試掘状況

土壌断面を観察し、分析資料を収集

上野新田地区の試掘作業状況

土壌断面の状況

ほ場整備を計画している地区で行う土壌調査は、工事を進めるうえで、表土の厚さはどのくらいか、水持ちが悪い土質か、いい土質か、などの現況を調査し、どのような整備が必要か、事業費を試算するために実施しているものです。

庄内管内の30アールほ場の整備率は、88%ほど。全国でも高い水準で整備されていますが、中山間地域には、未整備のところもあり、多くの要望が寄せられています。

調査結果を整理して、地域の実情に応じた整備を目指していきます。

地域のあるべき姿へ

～元気な地域づくりプロジェクト　由良～

12月1日(金)、由良コミュニティセンターで漁業者の方々を対象にしたワークショップを行いました。
由良地域には、豊かな自然、豊富な海産物があり、由良大漁まつりでは県外から多くのお客さまが訪れています。
多くの資源があるなかで、それを生かしていくために、改めて「地域のことを考えよう」とワークショップの手法で、地域づくりに取り組んでみることにしました。

地域づくりとは。ワークショップとは何か。やってどうなるのか。みんなで考えてみよう。

漁業者の皆さんが日頃考えていること、地域の“いいところ”“ダメな(変えていきたい)ところ”を話し合ってみました。

出し合った意見をまとめ、みんなで確認

普段から、集まって話をする機会はあるそうですが、最後には「今度は飲んで話そう」と盛り上がりました。

11月下旬から、由良地域に関わる団体ごとに地域づくりワークショップを始めました。

これからの由良のためにできること・・・改めて地域の現状を知るところから始めてみよう。自分たちが納得できるこたえを求めて。
それぞれの立場で、地域のあるべき姿をイメージした目標づくりを進めていきます。

暮坪の棚田写真集

～海の見える暮坪棚田～

暮坪の棚田で行っている田植え、稲刈りには、当課職員も参加しています。
このたび、平成28年・平成29年　2か 年の作業状況写真を整理して、『暮坪の棚田 写真集』を 作成しました。

集合写真を見ると、子どもたちの成長が著しく、2年とはいえ、時の流れを感じます。
活動を振り返るきっかけに、地域の皆さんで見ていただければと思います。

地域みんなの力で守られている、暮坪の棚田。
地域と関わっているものとしてできること、地域を元気にするためにできること。
考えながら、意識しながら、仕事をしていきたいと思います。

全国から同志が集結

～地域を元気に　全国研修会～

12月12日(火)～13日(水)の2日間。国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、平成29年度ふるさと水と土基金全国研修会が開催されました。
地域を元気にするための活動を実践している方々110名が全国から集まりました。
研修は、日頃の活動の成果を確認しつつ、今後の活動をよりよいものにしていくために、毎年開催されています。地域活動の実践に役立てていただこうと、山形県からは、毎年農村環境保全指導員の方々数名が参加しています。
今回は、急速に進む人口減少にどう対峙していくか、地元に人と仕事を取り戻すために、という農村地域の課題についての講演、各地域での取組みについての事例紹介がありました。
課題を抱えながらも頑張っている指導員の方々から活発な意見、質問があり、盛り上がった研修となりました。

参加した五十嵐指導員（手前:温海地域）と三浦指導員（中央:山辺町）

研修後、参加者には修了証書が交付されました。
全国で活躍する方々の話を聞き、大きな刺激を受け、また自分の活動に力が入ります。
2日間お疲れ様でした。

三浦指導員お疲れ様でした

五十嵐指導員お疲れ様でした

全国から、同志が集まり、各地域の活動や課題について、情報交換を行うことができ、指導員の方々も充実した2日間になったようです。
地域が元気になるために、県ができることをこれからも支援していきます。

12日の朝は、日本海側が大荒れでした。特急いなほは35分遅れて新潟に到着。
新幹線に乗継ぎ、何とか研修開会時間に間に合いました。

荒れる日本海

これから、ますます寒さが強まります。
地域のために頑張っている方々、身体が資本です。
地域みんなで一緒になって、地域の将来について考えてみましょう。
自らが楽しみながら。

農業用施設の役割を知ろう

～三川町立東郷小学校児童と施設研修会～

12月12日、農業用施設の多面的機能について子どもたちに知ってもらうことを目的に、東郷小学校児童を対象に赤川地区土地改良施設管理体制整備推進協議会施設研修会が行われました。
赤川地区の農業用施設を管理する庄内赤川土地改良区と因幡堰土地改良区が現場を案内し、施設が農業に果たす役割について説明しました。

研修の概要について説明

冬期間は白鳥が飛来する上池

赤川地区小水力発電所

東郷小学校の皆さんと研修のまとめ

自分が住んでいる地域を流れている水がどこからやってくるのか、改良区はどんな仕事をしているのか、農業用施設は農業だけでなく地域を潤す役目もあること、など子どもたちにとっては新たな発見もあったようです。
風が強い日でしたが、子どもたちは元気いっぱい！でした。

迅速かつ適切な実施を

～災害復旧事業担当者研修会～

12月14日、農地・農業用施設災害復旧事業担当者研修会を開催しました。管内市町、土地改良区の担当者を対象にした研修は今年度2回目。今回は、災害復旧事業の迅速かつ適切な実施を図るため、査定後の工事実施の流れと事務処理（補助金の手続き）の流れを確認しました。

復旧にあたっては迅速かつ適切な対応を

補助率増高について、災害発生から工事の実施、完成までに必要な手続きについて

災害発生時にはどうしても慌ててしまうものですが、復旧にあたっては、冷静に落ち着いた対応が必要です。事務処理も粛々と。

対応にあたり、不明なところがありましたら、当課担当までお問合せください。

鳥海南麓を支援

～ソバを打って食べよう～

毎年恒例のめだかの会（当課親睦会）行事『鳥海南麓支援そば打ち会』を12月15日（金）に行いました。

もちろん、そば粉は鳥海南麓団地で採れた常陸秋ソバ（品種:ひたちあきそば）を使用。そば打ち担当者は休暇を取って、そば打ちに臨みました。

丁寧な水回し、そばのいい香りがするまでよくこねる

延ばしてみよう　力が入ります

同じ間隔で切るのが難しい

うまくできてる？ 切れてる？

つけダレと漬物も準備OK

きれいにできました

打ちたてをおなかいっぱいいただきました

酒田市平田地域にある鳥海南麓山楯（やまだて）団地には、広大なそば畑が広がっています。
鳥海南麓地区は、平成元年～平成9年に実施された国営農地開発事業により造成されたものです。
造成された団地の一部では、地形勾配が大きいため降雨による土壌流亡や強粘土質土壌による排水不良で耕作条件が厳しいところも。土壌の熟畑化を図るため、農家の皆さんは営農努力による土づくりを行っていますが、それには多大な資材と労力がかかっています。
そのような現状を踏まえ、国営事業実施中から行ってきた土づくり支援に加え、国の営農調査事業や県・酒田市が連携した営農支援事業を実施してきました。
このような支援のみならず、当課でも鳥海南麓団地支援を！と始めたのが農村計画課親睦会(めだかの会)のそば打ち会です。
工事の実施により、事業効果を発揮することはもちろんですが、その後、地域を維持していくためにどれだけの支援ができるのか、県としてどう関わっていけるか･･･
年に一度は振り返り、仕事の仕方、向き合い方について考え、次へ活かしていきたいものです。

※上記、鳥海南麓地区を支援するに至った経緯は、NN. REIKOバックナンバー　第368回鳥海南麓支援にも載っています。

「農道栗山線」完成

～待望の全線完成～

鶴岡市朝日地域で工事が進められていた栗山地区農道整備事業（農道栗山線）が完了し、地元推進協議会による完成祝賀会が開催されました。
事業採択は平成8年。一部は14年度に完成しましたが、その後、農道整備事業の見直しにより10年近く中断されたため、20年以上かかり待望の全線完成となりました。

地区内の生産物がずらりと並ぶ

農道の沿線には水田や畑、樹園地が広がり、鳥海山や月山を望む風光明媚な場所。
樹園地では、庄内柿(一部は樹上脱渋柿「柿しぐれ」)のほか、実が大きい甘柿「太秋(たいしゅう)」「甘秋(かんしゅう)」、ワイン用のぶどうなどが生産されています。
朝日地域のぶどうを使った「月山ワイン」は、今年フランスで開催された「フェミナリーズ世界ワインコンクール」で金賞を受賞するなど、評価は年々高まっています。

金賞を受賞したワインはこちら

樹上脱渋柿「柿しぐれ」（中央はみかん）

冬期間は雪に埋もれる土地柄ですが、温州みかんやすだちの栽培にも挑戦しているとか。「楽しみながら農業をやっていきたい」という地域の方の笑顔が印象に残る祝賀会でした。

水田地帯を縦貫する路線

樹園地内の路線

剪定前のぶどう畑(遠くに鳥海山)

柿畑が広がる(遠く白い山は月山)

11月下旬に現地を訪れました。例年より早い降雪に、追われるようにぶどうの剪定作業を行っていました。
農道の完成により、さらに高品質の農作物が生産され、その流通環境が改善されたことにより、朝日地域の農産物が多くの方々に親しまれ、地域の皆さんがより笑顔になることを期待しています。

庄内 冬の快晴

～すみわたる青空～

12月21日、この時期には珍しく、庄内はすっきりとした青空が広がりました。

写真左奥は真っ白な月山 雪化粧の庄内平野

鳥海山と大山川 大区画ほ場が並ぶ西郷北部地区

穏やかな日本海 由良 白山島

日本海の冬の風物詩といえば“波の花”ですが、穏やかな海もまた、いいものです。

御用納めまで1週間。やるべきことは今年のうちに。的確なスケジュール管理が大切です。
心穏やかに来年を迎えることができるように、頑張っていきましょう。

女性の視点で地域を考える

～元気な地域づくりプロジェクト　由良～

12月25日(月)、由良コミュニティセンターで由良のリーダー的女性を対象にしたワークショップを行いました。
多くの資源があるなかで、それを生かしていくために、改めて「地域のことを考えよう」と由良地域ではワークショップの手法で、地域づくりに取り組んでいます。
これまで、観光協会、漁業者会、自治会の方々とワークショップを実施してきました。
本日は、由良で活躍する女性たち。地域の婦人会と※ゆらまちっく海鮮レディースの方々です。

皆さんが日頃考えていること、地域の"いいところ""ダメな（変えていきたい）ところ"を話し合ってみました。

これまで、婦人会と海鮮レディースが話し合う場はありませんでした。
本日のワークショップをきっかけに、お互いの活動を知り、団体同士の交流を図ろうと盛り上がりました。

※ゆらまちっく海鮮レディース
豊かな自然、豊富な海産物に恵まれている由良。由良の食文化を伝えたり、これまで値がつかなかった水産物を加工することにより価値あるものへ･･･。由良の漁師の奥さんが中心となって活動している。平成21年3月に設立した『ゆらまちっく戦略会議』を構成する組織のひとつ。
やまがたの農山漁村づくり情報マガジン『農楽里norari』vol.15で活動を紹介しています。
由良の食文化発信　ゆらまちっく海鮮レディース(PDF.300kB)
http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol15/norari15HP-P04-P05.pdf

11月下旬から、由良地域に関わる団体ごとに地域づくりワークショップを始め、4団体が1回目のワークショップを終えました。
団体ごとに課題はさまざまですが、共通する課題、ほかの団体と一緒に活動すれば改善できそうな課題など、皆さんの日頃の思いを伝え合う場となりました。

これからの由良のためにできること･･･自分たちが納得できるこたえを求めて。
それぞれの立場で、地域のあるべき姿をイメージした目標づくりを進めていきます。

福岡で頑張れ！

～山形県からお手伝い～

当課 佐々木朗が1月1日付けで、災害復旧業務支援のため福岡県へ派遣されることとなりました。

派遣辞令交付

勤務は1月4日～31日までの1か月。派遣は、県から1名ずつ、1か月交代で来年3月まで続く予定です。
佐々木は、今年1月も熊本県において災害復旧工事着工が迫る現地で業務にあたりました。

これまでの経験を生かしつつ、さらに多くの経験を積んで、大きくなって帰ってきてね。
健闘を祈る！

漁師の視点で地域を考える

～元気な地域づくりプロジェクト　由良～

12月27日(水)、由良漁業者会　佐藤会長のお宅で由良漁業者のワークショップ2回目を行いました。

まずは、前回のワークショップで意見を出し合った、地域の“いいところ””“ダメな（変えていきたい）ところ”を振り返りました。
“いいところ”は伸ばす、上手に使う方法、””“ダメな（変えていきたい）ところ”は解消する、強みに変える方法について、それぞれ考えていることを話してみました。

“由良”の名前で売れるブランドづくり、由良大漁祭を盛り上げるための協力体制・組織の連携など、自分たちだけではできないことも、今回のワークショップを機に団体同士が協力し合う仕組みがつくれそうです。
由良の漁師さんのなかには、漁師になりたくて由良に移住した方もいらっしゃいます。
やる気のある若者を受け入れ、育てる気質もある由良の漁師さんたち。
若き頃のベーリング海での遠洋漁業の話、イカと共に移動するイカ釣り漁船の話….。よく顔を合わせていても話していなかった、とっておきの話をたくさん聞くことができました。

これからの由良のためにできること・・・自分たちが納得できるこたえを求めて。
それぞれの立場で、地域のあるべき姿をイメージした目標づくりを進めていきます。

外は猛吹雪。庄内らしい天気が続いています。
年末年始、交通安全に留意してお過ごしください。
今年もご愛読ありがとうございました。楽しく、興味深く、見ていただけるホームページを目指して。
引き続き、来年もよろしくお願いいたします。

～本年もよろしくお願いします～

2018年、新たな年を迎えました。

庄内地域の農業、農村を維持し、次の世代へつないでいくために。
農業農村整備ができること・・・

地域がそのよさを生かし、元気な農村であり続けるために、がんばる皆さまのお手伝いをしていきます。
本年もよろしくお願いいたします。

福岡で頑張ります！

～山形県からお手伝い～

災害復旧業務支援のため福岡県に派遣された佐々木から、着任した旨の連絡がありました。

朝倉市役所朝倉支所災害復旧対策室の状況

佐々木が携わるのは、被害額が300億円を超えた朝倉市。

朝倉市役所朝倉支所災害復旧対策室には、福岡県内の農業農村整備事業に従事する職員、県内外の市町村からの応援職員、山口県・山形県派遣職員（佐々木）、コンサルからの応援職員など、多くの方が詰めているそうです。

9日には、現地を回り、これからの業務内容について確認を行ったとのこと。

身体に気を付けて、福岡県のために頑張ってほしいと思います。

～山形県からお手伝い～

今週末にかけて、強い冬型の気圧配置となっています。
庄内地域の道路は、テロテロ（庄内弁：路面が凍ってツルツルした状態のこと）。ここ数年で最も冷えた朝となりました。

佐々木が派遣されている福岡県にも雪が降りました。

業務の様子

朝倉市役所からの眺め（2cmの積雪）

佐々木が担当するのは、頭首工、査定設計委託の変更契約、査定結果を受けた河川協議、頭首工管理者との打ち合わせなどを担います。

乙石川の被災状況

一年の無事を祈る

～出羽三山山伏によるご祈祷～

1月15日、出羽三山神社山伏さまより、新年のご祈祷をいただきました。
(※出羽三山:羽黒山、月山、湯殿山の総称)

日本有数の修験道の聖地、羽黒山。羽黒修験道は、三山の特徴から現在(羽黒山)、過去(月山)、未来(湯殿山)とみたてられ、生きながら若々しい生命(いのち)をよみがえらせる『生まれかわりの旅』として、江戸時代に広がりました。

現状を認識し、過去に学び、未来へつなぐ・・・自分にできることは何か。自分は何ができるのか。
新年を迎え、職員ひとりひとりが意識の『生まれかわり』をすることで、地域にとっての"いい仕事"につながればと思います。

狩猟文化を体験しよう

～大鳥でウサギの巻狩り体験～

1月20日、鶴岡市大鳥自然の家で「第2回山里の狩猟文化体験―大鳥でウサギの巻狩りを体験しよう」が開催されました。地元鶴岡のほか、遠くは東京、仙台、山形から家族連れなど26名が参加し、スタッフを含めると総勢40名あまりになりました。
巻狩りの概要と注意事項について説明を受けた後、参加者は4班に分かれ、各班のリーダーに従い、かんじきを履いて雪山へ。射手がそれぞれの位置についたことを確認してから、勢子（せこ：参加者が担当）は「ホォー、ホォッ」と大声を上げてウサギを追いましたが、残念ながらウサギは現れず・・・。

かんじきを履いて雪山を登る

射手による入念な打合せ

大きな声でウサギを追い出す勢子

昼食は弁慶飯とウサギ汁

本日のまとめと振り返り

前日に獲ったウサギの肉に野菜と油揚げをいれ、味噌で味付けをしたウサギ汁は、冷えた身体が温まるおいしさでした。

かつては集落をあげて巻狩りをして、一度に10羽以上獲れたこともあったようですが、今はウサギも人間も減ってしまい、10数年前から巻狩りはしていないとのこと。
今回のイベントには、鶴岡市朝日地域の農村環境保全指導員　田口比呂貴さんもスタッフ兼射手として参加しました。地域文化として若い世代につながっていくといいなぁ・・・。
大鳥自然の家では、2月3月にも冬を楽しむイベントを計画しているそうなので、機会があればまた参加したいと思います。

執行状況を確認

～状況報告に基づき中間事務検査を実施～

今日から、中間事務検査週間です。
補助事業の実施にあたって、その年度の執行が適時、的確に行われているかを確認するため、第3四半期(12月末現在)の執行状況を報告することになっています。
事業主体から執行状況報告を受理したうえで、事業主体に赴き、工事や委託の契約状況、工事の実施状況などを確認するのが、中間事務検査です。

事務検査の状況

事業が完了する前に、改善点をみつけ指導できる、という意義もある中間事務検査。
検査は今月末まで続きます。

地域が目指すもの

～各地で地域づくりワークショップ～

1月24日(水)午前、由良地域の女性たちが2回目の地域づくりワークショップを行いました。
前回のワークショップに参加したのは、女性が関わる組織の代表5名。今回は、より多くの女性に参加してほしい、と代表の方々が声をかけ、10名の女性が集まりました。

前回の振り返りと今日の作業について

前回のワークショップでまとめた、地域の"いいところ""ダメな(変えていきたい)ところ"を振り返り、今回から参加した女性の意見、思いも組み入れて･･･ "いいところ"は伸ばす、上手に使う方法、"ダメな(変えていきたい)ところ"は解消する、強みに変える方法について、それぞれの思いを話し合いました。

由良地域の資源を活かすのは、"食"。
地域のものを地域で食べる、買うことができる環境を整備したい、そのためにはどうすれば？？
それぞれがやれることをやれる範囲で。続けることができる活動を無理なく。という視点で、さまざまな意見が出てきました。
この盛り上がりを大切に、より具体的に実施に向けた話し合いを進めていく必要性を感じた、ワークショップとなりました。

そして、夜。加茂地区コミュニティセンターへ。
加茂グランドデザイン検討委員会のワークショップに行ってきました。

加茂地域は、これまでいろいろな支援を受け、地域づくりを進めてきたものの、地域をひとつにするビジョンをまとめあげることが、難しい状況にありました。そこで、昨年11月に「加茂グランドデザイン検討委員会」を設立。
加茂地区自治振興会が事務局となり、改めて地域づくりを！と動き出したところです。
今日は、検討委員会の皆さん16名が集まり、地域の強み、弱みなど、地域の現状を把握するところから始めました。

それぞれの思いを話すことで、新たな発見や意思の疎通、考えの共有が図られるワークショップ。
みんなが集まる場、地域について考える場･･･どの地域でも、その"場"が少なくなっています。
まずは、"場"を設け、伝え合うところから。
地域づくりの一歩が始まります。

これから地域のためにできること･･･自分たちが納得できるこたえを求めて。
それぞれの立場で、地域のあるべき姿をイメージした目標づくりを進めていきます。

外は猛吹雪。庄内らしい天気が続いています。
外は吹雪いていても、ワークショップは、熱い！
皆さんの熱い思いで、地域を元気にしていきましょう。
そんな皆さんのお手伝いをしていきます。

小さなエネルギーの活用

～小水力発電の取組み～

1月25日、東北公益文科大学において、「庄内・社会基盤技術フォーラム」が開催されました。
そのなかで、鶴岡市大網地域において鶴岡高専と連携して実施している、農業用用排水路でのマイクロ出羽水車による発電実証試験（県の補助事業）の中間報告が行われました。

報告の様子

鶴岡市大網地域では、農作物を猿や熊などの被害から守るため、数年前、電気柵を設置し、その電力を山間部水路の水の流れにより生み出す取組みを行いましたが、水路を流れる落ち葉などで発電機がたびたび停止するため、その維持管理に苦慮していました。
そこで、今年度から維持管理の課題を克服するため、鶴岡高専と連携して、マイクロ出羽水車による発電の実証試験を行っています。

電気柵の設置状況

マイクロ出羽水車による発電の状況

今年の実証で明らかになった課題については、来年、装置の工夫等により、解決に向けて取り組んでいく予定です。

地域づくりプランナーの養成

～ワークショップ運営の手法を学ぶ～

2月1日の午後から2日(金)夕方まで、ワークショップシナリオ作成研修が行われました。
中山間地域をはじめとする農山漁村における地域づくりでは、住民のやる気の醸成と合意形成を図る手段として、ワークショップの開催が効果的な手法のひとつとなっています。
山形県でもその手法の重要性に早くから着目し、地域の要請等に対して地域づくりワークショップ運営を支援してきました。

小野邦雄さんの講義

地域づくりとは何か、地域づくり技術者(プランナー、ファシリテーター)の要件・役割について、ある地域の事例を基にワークショップを体験しながら、研修を進めていきました。
地域と共に活動している研修参加者にとっては、進めていくうえでの疑問や不安な点の解消にもつながった、充実した2日間となったようです。

研修事務局としての反省点もみえてきました。
やってもやっても、自分の理想とする姿に持っていくまで、終わりはないのかもしれません。
でも、繰り返すことで少しずつでも、前進していければと考えています。
研修後の日々の鍛練が重要なんですね。

研修を通じて、参加者同士のつながりをつくることもできました。
同じ思いの者同士がつながって、庄内各地で地域づくりを進めていければいいなぁ～
参加した皆さんの今後のご活躍を期待しています。

福岡から戻りました！

～山形県からお手伝い～

災害復旧支援のため福岡県に派遣されていた佐々木が、本日から山形県の任務に戻りました。

辞令交付

福岡県での業務について

1か月ぶりの庁内。
インフルエンザも流行が始まっています。
健康に留意して、バリバリがんばっていきましょう！

格別な味わい

～庄内町立余目第一小 4年生めだかの里米給食～

11月7日、今年の農業体験活動に協力いただいたお礼として、NPO法人家根合生態系保全活動センターから4年生に贈られた"めだかの里米"の給食試食会が行われました。

佐藤理事長　1年の振り返り

今日の献立(ご飯はめだかの里米)

民生委員の方々と一緒に楽しくおいしい給食

子どもたちからは、「いつもより米があまく感じられた」「いつもと違う感じがして、おいしかった」という感想がありました。

家根合地域の活動は、余目第一小学校とNPO法人家根合生態系保全センターが企画運営しているものです。
今年も、子どもたちと地域の方々が、関わり合いながら充実した活動ができました。来年度も、地域と一体となった活動が予定されています。

子どもたちが地域の自然を守りたい、という思いから始まった環境保全活動や農業体験は、余目第一小学校の先生方や地域の方々の理解と協力があって、継続されてきました。
これからも子供たちの思いを受け止めた活動を続けることができるよう、県ができることをお手伝いしていきます。

『農楽里norari』vol.27配信

～2018冬号 配信しています～

元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する"職員手作り"の情報誌です。

冬号は、2月7日に山形県HPにアップされました。
やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里(norari)」冬号の詳細(PDF:2.6MB)
http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol27norari/vol27alls.pdf

今回の特集は、冬のなりわい。
雪が積もる冬の間の"やまがたのくらし"。次世代につないでいきたい技術や想いを紹介しています。
庄内からは、庄内町槇島で受け継がれ、ニュースや新聞でも話題となっている槇島ほうき。地域の宝を守る活動を取材しました。
また、人と人をつなぐ…地域で活躍する女性 粕渕朋美さんの活動も紹介しています。粕渕さんは、今年度から鶴岡市櫛引地域の農村環境保全指導員としても、活躍いただいています。

ぜひご覧ください。

目から鱗の新技術

～技術発表会で学ぼう～

2月8日、山形県高度技術研究開発センターにおいて、「農業農村整備事業における技術発表会」が開催されました。
農業農村整備事業とは何か、土木建設業に関心を持つきっかけとして取り組んだ「ほ場整備工事における高校生の職場体験」、「流水を使用した除塵機」「工場製品使用による工期短縮」「情報共有システムを利用した書類の電子化」などの新技術、業務軽減につながる6事例が発表されました。

工事書類の省略化について

この発表会は、農業農村整備事業におけるさまざまな取り組みの共有と、若手技術者のプレゼンテーション能力の向上を目的に毎年開催されています。

発表者は、緊張しつつも自信を持って説明していました。
これからの業務につながる、生かせる、経験の場になったようです。

工事の安全施工

～3月完成に向けて万全の安全管理を～

2月13日、庄内総合支庁産業経済部で発注している工事の安全パトロールを3班体制で行いました。
連日の大雪で、工程どおりの施工ができない工事が多いようですが、そんな時こそ、現場の安全管理が大切です。
通常の現場管理、安全対策に加え、この時期特有の雪対策、寒さ対策も適切に実施されているかが、点検のポイントとなります。

書類点検状況

安全対策について現地で確認

帰庁後、点検内容を各班で共有

年度末まで1か月半。
逸る気持ちを抑えつつ、安全施工に努めましょう。

振り返るアイテム

～WSシナリオ作成研修ドキュメント完成～

2月1日午後から2日夕方まで実施した、ワークショップ・シナリオ作成研修のドキュメントが完成しました。

"ドキュメント"とは、今回の研修の成果をまとめたものです。
地域づくり技術者には、
①シナリオ作りプログラム作りの能力
②運営する能力（創造の機会が気持ちよくできている。たとえの活用で応えやすい質問を投げかけることができる）
③成果報告をまとめる能力が求められます。

地域づくり技術者は、ワークショップにより、"正解"ではなく、"みんなの納得"を引き出し、その成果をまとめ、みんなで共有するアイテムとしてドキュメントを整理します。完成したドキュメントは、必ず参加者に返し、振り返りに活用いただきます。
これらの地道な繰り返しが、地域の想いをひとつにしていきます。

研修に参加された方々には、本日郵送等によりお送りしました。
ドキュメントを読み返して、研修を振り返っていただき、地域づくりの実践にご活用いただければ幸いです。
皆さんの今後のご活躍を期待しています。

笹まきつくりの継承

～農村環境保全指導員の活動状況16～

農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。
2月17日(土)、鶴岡市三瀬地域の鈴木正農村環境保全指導員が企画した笹まきつくり体験会に行ってきました。
笹まきつくり体験会は、今回で4回目。三瀬地域の方々のほか、遠くは山形市から、合わせて20名が参加しました。

鈴木農村環境保全指導員

笹まきと中華ちまきの材料

三瀬地域の笹まきは、地域に自生する笹の葉を使い、地域の山から出る薪で暖を取った後の灰汁をもち米に吸水させる、地域の産物だけで作ることができる地域の伝統食です。
灰汁の量や入れ方は、人それぞれ。これまで、皆、感覚でやっていました。
そこで、今回、鶴岡高専の協力を得て、灰汁の濃度を数値化し、マニュアルを作ることにより、誰でも同じものを作ることができる＝技の継承への第1歩を踏み出しました。

三角巻と平巻　巻き方の説明

3名の先生方から熱心に聞く

できあがり

笹まきつくり体験は、鈴木指導員の「幅広い世代から継承してほしい」という想いから、毎年企画されています。
1度の体験だけで習得するのは難しいことです。参加者からは、動画にとって記録してほしい、という要望もありました。
先生方は何回もやって覚えた、とのこと。まずは、何回もやってみることが大事なようですが、若い世代に伝えていくには、いろいろな視点で考えていく必要があるようです。

県は、地域を元気にする活動を応援しています。

県道を横断

～平成29年度坂野辺地区第5工区工事～

2月19日、庄内総合支庁農村整備課で発注している工事の現地研修を行いました。

酒田市坂野辺地区は、地区のほ場整備に併せ、揚水機場の改修、開水路の管路化により、作業効率の向上と用水の節水を図ろうと平成26年から工事を進めています。

今回の工事は、県道酒田鶴岡線を東西に横断する管路を埋設するもので、県道の通行確保のため、推進工法を採用しています。

今日は推進管（径600㎜）を押す作業開始から3日目。今後、推進管設置後に用水管（塩ビ径400㎜）を挿入していきます。

推進管を発進立坑へ

推進管（径600㎜）

管の接続作業状況

操作盤で管の中心のズレを管理

2月下旬になりましたが、まだまだ雪が舞う寒い中での作業。

引き続き、安全作業をお願いします。

～ため池ハザードマップ地元説明会～

農業用ため池の近隣に住む方々、施設管理者を対象にした、ため池ハザードマップ（緊急時危険氾濫区域図）の地元説明会を実施しています。

ため池ハザードマップは、ため池ごとに想定される氾濫区域の情報を共有して、地域の危機管理意識を醸成し、緊急時の対処方法など地域の話し合いに活用いただくことを目的に平成25年度から作成しています。

庄内管内では、今年度までに、36か所のため池でハザードマップを作成して、今年度は22か所の説明を予定しています。

笹川土地改良区管内の説明会

鶴岡市大山地区の説明会

庄内管内には、受益面積0.5ha以上の農業用ため池が155か所あります。

管理者は年に1回以上の点検や維持管理を適正に実施していますが、近年頻発している大規模地震やゲリラ豪雨などの自然災害によりため池か決壊し、被害が発生するおそれがあることから、防災・減災対策が重要となっています。

県は、平成25年度、26年度にため池の一斉点検を行い、施設の現状を把握しました。その結果から、耐震性点検調査やため池ハザードマップ作成を実施しています。

県で作成しているため池ハザードマップは、緊急時の危険氾濫区域を整理した基礎情報です。

皆さんの地域の“もしもの時”に備えた話し合いに、ご活用ください。

シカク取得のすゝめ

～資格は身を助ける 技術力を磨こう～

2月26日、庄内総合支庁農村計画課農村整備課の職員研修を行いました。
今回のテーマは「シカク取得」。
日々の業務をこなすなかで、具体的目標設定としての資格、対外的評価のための資格、自らの身に残るものとしての資格。"シカク"を意識したら、仕事への向き合い方が変わってくるのではないだろうか。
"マル"く収まり、スムーズに業務が回るようになるかも、そんな視点での企画です。

山平農林技監から研修の目的について

講師となった職員には、技術士取得に至るまでの流れ、受験までの勉強法。農村災害復旧専門技術者認定制度の概要と福岡県災害復旧支援の報告について、自らの経験、体験を踏まえた説明をしてもらいました。
併せて、3月1日に現地研修会を予定している青龍寺川地区についての事前研修も行い、内容盛りだくさんの2時間となりました。

体験、経験している人が身近にいることのありがたさ。
自らの体験を、自分の中だけに留めず、みんなで共有する。
納得できる答えを求め、みんなで話し合える。
個々の技術力を磨き、組織としても磨きをかける。そんな研修を目指して、これからも企画していきます。

～瓦リサイクル　給水渠被覆材として試験施工～

2月28日、庄内総合支庁農村整備課で発注している水田畑地化基盤強化対策事業の現場で試験施工を行いました。
水田畑地化基盤強化対策事業とは、水田において高品質で高収益な畑作物の栽培を実現するために、地下水を調整するための給水施設、地下水調整施設、給水渠などを整備し、農家の経営安定を図ろうと実施しているものです。

このたび、環境課で取り組んでいる瓦リサイクルの取組みとして、給水渠の被覆材に瓦チップを使用してみました。
庄内地域における廃瓦発生量は、年間17,000トン。瓦リサイクルプロジェクトでは、「県内で発生した使用済み瓦の全てが資源として適正に利用されること」を目標に、「瓦を排出する人」、「瓦をリサイクルする人」、「瓦リサイクル製品を利用する人」がそれぞれの役割を果たす資源循環システムの確立を目指しています。

瓦を20mm以下の粒状になるまで砕いて粒度調整したもの

給水渠の施工状況

材料の違いによる施工性の差は感じられない

掘って管を入れて、瓦チップを投入

試験施工は、20aほ場1か所で行いました。資源循環の取組みについて、耕作者の理解があり、実現したものです。
瓦チップ研究会の方の話では、全国で150万トンの廃瓦が発生し、活用されるのは10%程度。砂や砂利の代替品として大量に使用される農業用関係での活用を期待しているとのこと。
活用にあたっては、これから経過を観察し、その効果を検証していく必要があります。

限られた資源を有効に活用するには、ひとりひとりが理解し、意識するところから。

～青龍寺川地区　本田分水工補修工事～

3月1日、基幹水利施設ストックマネジメント事業現地研修会に参加しました。
今年度の現地研修会は、昨年12月の村山北部地区を皮切りに、今回で4回目。
今回は、青龍寺川地区の本田分水工の補修工事の状況を研修しました。
本田分水工は、造成から60年以上経過し、経年劣化に伴う劣化や損傷が目立つようになり、調査の結果、劣化部を靱性モルタルライニング工法により、補修することになりました。

地区概要の説明

手前が高圧洗浄を終えた状態

繊維が練り込まれている靱性モルタル

モルタルを吹付けたら金ゴテで仕上げる

靱性モルタルは、繊維を練り込んでいるためひび割れにくく、耐久性が高いとされています。
また、施工性では、高圧洗浄により劣化部を除去した表面にプライマー不要で吹付けることができ、吹付け後は、金ゴテで仕上げるため、型枠の製作もいらず、工期の短縮を図ることができます。

急速に発達する低気圧の影響で、現場は暴風雨。
河川内の工事のため、施工期間や施工方法に制限があるなか、完成に向けて作業が進められています。

めざす姿への第1歩

～由良地域づくりワークショップ中間まとめの会～

3月3日(土)午前、由良地域づくりワークショップの中間まとめの会を行いました。
由良地域では、昨年の11月から、地域のために活動している組織ごとにワークショップを実施してきました。
それぞれの組織が、課題と感じていること、それを解決するために何をしたいと考えているのか。話し合った内容をみんなで共有することを第1の目標に、各組織から合わせて16名が集まりました。

話合いの目的と由良の現状の振り返り

各組織が話し合った内容を発表。

由良漁業者会

由良の女性たち(婦人会･海鮮レディース)

由良観光協会

由良自治会

それぞれが由良地域のための活動をしていながら、お互いを知る機会がなかったみなさん。
今回、一堂に会して話をすることができ、みなさんがめざす"これからの由良"になるための第1歩を踏み出せました。

これから地域のためにできること･･･自分たちが納得できるこたえを求めて。
それぞれの立場で、地域のあるべき姿をイメージした目標づくりを少しずつ、着実に進めていきましょう。
引き続き、みなさんの熱い思いを応援していきます。

融雪状況の調査

～農地地すべり防止区域を点検～

農地農業用施設が被災した場合、災害復旧事業の対象となるのは異常な天然現象によるものです。

≪災害復旧事業の対象となる異常な天然現象≫

・降雨：最大24時間雨量が80mm以上。なお、80mm未満であっても次の場合は対象となる。

1)時間雨量が概ね20mm以上であった場合

2)上流域の異常降雨による河川等の洪水または増水によって発生した場合

・風速：最大風速が15m/s以上(10分間平均)

・洪水：水位がはんらん注意水位以上(はんらん注意水位が定まっていない場合は河岸高さの2分の1以上)

・地震

・その他異常な天然現象　竜巻、積雪、落雪等

これから、気温の上昇や降雨により急速に雪解けが進むと、24時間換算雨量80mm以上に相当する異常現象が発生する可能性があります。そこで、融雪の傾向を把握することを目的に、当課では、6年前から融雪状況調査を行っています。

融雪状況調査は、毎年3月から4月上旬ごろまで、県が管理する農地地すべり防止区域(庄内管内は5か所)で行います。 区域の積雪量と雪の密度を定期的に測定し、融雪量を雨量に換算することで、その傾向を確認するものです。

今年も3月7日から調査を始めました。

積雪量の測定

コアを抜いてその重量から密度を算定

本日の点検では、不自然な融雪、雪崩、崩落等はなく、異状なし。

もし、皆さんがお住まいの地域で異状を発見したら、まずは自身の安全を第一に、行動願います。

日に日に暖かくなってきました。もうすぐ、春ですね。

穏やかな日本海と鳥海山(鶴岡市加茂にて)

～資源を活用した地域振興～

今回は、鶴岡市温海地域において、地域資源を活用した地域活性化を図る取り組みを紹介します。

鶴岡市越沢。
平野部では、気温の上昇と降雨により雪どけが進んでいますが、こちらは背丈を超えるほどの雪がまだ残っています。
越沢自治会が運営するまやのやかたに行ってきました。

昨年度、越沢自治会では、地域おこし協力隊を含めた住民20名による「越沢活性化委員会」を立ち上げ、越沢のめざすべき将来像「越沢活性化ビジョン」をまとめ上げました。
越沢といえば、そびえ立つ名峰「摩耶山」、その麓に湧き出る「郷清水(ごうしみず)」。まやのやかたの「そば」、豊富な「山菜」、透明感のある黄金色の「笹まき」など、おいしいものもたくさんあります。
それらの資源を活用しながら、安心して暮らせる集落、誇れる集落を目指して、みんなで楽しみながら頑張っています。

シャキシャキわらびのしょうが和えと笹まき

つなぎは自然薯のそばと揚げたて天ぷら

続いては、鶴岡市関川。関川しな織センターは、昨年8月にリニューアルオープンしました。
日本三大古代織りのひとつ「しな織」。しな織は、しなの木の皮の繊維を糸にして織ったもので、1年ほどの時間をかけ、全て手作業で丁寧に仕上げられます。センターでは、しな織の展示・販売のほか、関川しな織協同組合の織り作業や加工・製作作業を見学することができます。

しなの木から糸になるまでの工程を展示

しなより(糸より)作業

コースター作り体験ができる

関川しな織協同組合は、地域で受け継いできた「しな織」を産業として確立させるため、平成元年に設立されました。地域全体の活性化を図ろうと、関川集落全戸が構成員となり、技術の継承とPR活動を行っています。

地域の資源を強みに。
これまで地域を支えた方々への感謝と次世代につないでいこうという地域の方々の思いが地域を支えています。

地域づくりに生かす種

～地域未来フォーラム～

3月14日(水)～15(木)、平成29年度地域未来フォーラム(庄内)に参加しました。
14日は、庄内で先進的に地域づくりを実践している11組織の取組み発表会。
取組み発表会には、地域から80名以上の関係者が集まり、組織の状況や取組みについて共有し、学び合う場となりました。

朝日東部地区自治振興会

由良地域協議会ゆらまちっく戦略会議

15日は、小規模多機能自治による住民主体の地域づくりをテーマに地域づくり実践者研修会が行われました。
行政職員を対象とした研修会では、住民主体の地域づくりを進めていくには、地域が置かれている現状を理解する、場、機会、材料を地域に示し、自分たちで決め、担う＝判断できる状態をつくることをまず始めなければならない、というお話をいただきました。
今後10年で、地域の高齢者比率、子ども比率は大きく変わってきます。その時、地域では何を求めるのか。
地域が判断できる材料を提供していくのが、私たちの役割のひとつです。

地域を元気にしたい、活性化したい、何とかしたいと思いながら、どう動けばいいか分からない、そんな地域がたくさんあるのが現状です。
行政職員として、私たちができること、すべきこと。
改めて考え、地域といかに向き合っていくか。

この2日間の研修で、参加者がそれぞれの立場で"地域づくりに生かす種"をみつけることができたのではないでしょうか。

秋田発「攻めの農業」

～秋田県の取組みを学ぶ～

3月16日、秋田テルサにおいて、平成29年度あきたのほ場整備「攻めの農業」発表会～構想と実践～が開催され、庄内管内の土地改良区、ほ場整備事業調査計画実施地区から20数名が参加しました。

佐藤次長のあいさつ

関心が高く、参加者330名

秋田県では、ほ場整備事業を契機に、農地の集積・集約化と園芸メガ団地の整備を一体的に取り組み、関係機関が一丸となって支援しています。

今回は、営農実践2地区、営農構想13地区の発表と質疑応答、意見交換が行われました。

秋田県佐藤農林水産部次長の「採択はゴールではなくスタート」というあいさつのとおり、営農計画が絵に描いた餅にならないよう、事業採択まで熱度を高め、実践していこうと取り組んでいます。

農地の受け手がなく、耕作放棄地が増え、担い手は高齢化が進み、後継者不足の心配がある等、各地区の課題は庄内と変わりません。そんななか、ほ場整備後のかなりの面積を園芸作物へ転換し、それによる収益増を見込む、意欲と熱意を感じる発表会でした。

庄内地域からの参加者にとっても、参考になることが多かったと思います。

今後の営農計画の作成に活かされることを期待しています。

～メダカライス純米酒 新酒お披露目会～

3月16日(金)、メダカライス純米酒の新酒お披露目会がやまと桜 母屋にて行われました。

NPO法人家根合生態系保全活動センター佐藤理事長から、「これまでの活動は、たくさんの人たちがつながり、築いてきたもの。だからこそ、続けることができた。今後も地域みんなで活動を継続していきたい。」とあいさつがありました。

社長から新酒の仕上がりについて

地域みんなで活動を継続　佐藤理事長

原酒とおいしい湧水

家根合地域の環境保全活動から大人の楽しみとして始まった純米酒づくりは、今年で12年目。
今年の冬は、例年より寒かったため、いつも以上に、きりっとした味わいに仕上がりました。
JR余目駅、庄内町新産業創造館クラッセ「なんでもバザールあってば」などで販売しています。
ぜひ、お試しください。

由良の食文化発信

～『おつまみ干しだこ』でたこ飯～

鶴岡市由良地域の魚食文化を発進している「ゆらまちっく海鮮レディース」。

海鮮レディースは、由良沖で水揚げされ、流通に適さない小鯛やテナガダコなど、値がつかない、捨てられていたものを漁師から買い取り、加工することによって、由良地域の食文化を伝えるとともに、雇用の場を創出しようと活動している女性たちです。

今日は、加工して発売しているなかのひとつ、『おつまみ干しだこ』を使って、たこ飯を炊いてみました。

『おつまみ干しだこ』は、テナガダコを一匹ずつ丁寧に塩でもみ洗いし、秘伝のたれに浸して干したもの。しっかりと味がついているので、水で戻して、戻した水と一緒に炊き込めば、タコのうまみを吸ったおいしいたこ飯の出来上がり。

たこ飯のおにぎり

ぜひ、お試しください。

「ゆらまちっく海鮮レディース」の活動は、やまがたの農山漁村づくり情報マガジン『農楽里(norari)』vol.15にも掲載しています。

由良の食文化発信 ゆらまちっく海鮮レディース（PDF.300kB）

http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol15/norari15HP-P04-P05.pdf

地域で取り組む小水力発電

～地域の資源を守り活用～

小規模ながら安定した電力として期待される小水力発電。庄内地域でも農業水利施設等を活用した小水力発電事業が進められています。
このたび、全国で最も多くの小水力発電を有する小水力発電先進地 富山県から、富山県小水力利用推進協議会会長で富山国際大学教授の上坂博亨さんを講師にお迎えし、「地域で取り組む小水力発電」セミナーが開催されました。

はじめに、やまがた自然エネルギーネットワーク代表の三浦秀一東北芸術工科大学教授から、山形県の小水力発電の状況について説明があり、その後、上坂教授から富山県の小水力発電の状況と地域住民が始めた小水力発電の事例、小水力発電導入の手続きなど具体的なお話がありました。

三浦教授が県内の小水力発電の状況について説明

小水力発電は地域の大切な資源。
最上地域では、砂防堰堤を利用した官民共同の小水力発電事業も始まっています。その資源を地域で活用して地域に豊かさをもたらすことができないか。地域を理解し、一緒になって、資源を守り活用することが大事、という話が印象に残りました。
今後も地域資源を活用した取り組みを地域の方々と一緒になって考えていきます。

地道な任務への感謝

～農地地すべり防止区域巡視員～

庄内管内で県が管理する農地地すべり防止区域は5箇所。

農地地すべり巡視員は、地すべり防止区域を適正に管理することを目的に、日常点検と豪雨や地震等発生時の緊急点検をお願いしている方々です。

その地域に住んでいるからこそ、いち早くいつもとの違いを察知し、管理者が気づくことができないところをフォローしていただくため、委嘱しています。

東岩本地区の小野寺善弥さんには、平成24年度から6年間、農地地すべり巡視員を務めていただきましたが、地域に住む方々が、より関心を持って管理していけるよう、次の世代へ引継ぐことになりました。

「ありがとうございました」感謝状をお渡ししました

巡視員の仕事は、月1回の日常点検、総合支庁職員とともに行う融雪期の定期点検、豪雨や地震時の緊急点検など、地道な任務です。地域の安全安心のため、大事な役割を担っていただいたいます。

農地地すべり巡視員の仕事と地すべりのメカニズムについては、こちら。

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン農楽里norari vol.3 農地を守る仕事人(PDF.194KB)

http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol3/norari3HP-P10-P11.pdf

平成29年度の締め

～今年度業務がすべて終了～

～県営工事完成検査 すべて終了～

3月までに完成する県営工事の完成検査は、3月15日から始まり、29日までに41件全ての検査が終了しました。

書類検査の状況

現地の検査状況

～やまがたの農山漁村づくり情報マガジン『農楽里norari』vol.28 発刊～

2018年春号の特集は、「農業農村を支える水守人(みずもりびと)』。

田んぼに水を導き、守る 土地改良区の仕事をさまざまな角度から、取材しました。

土地改良区では、水利施設の維持管理のほか、田んぼや畑を一つにまとめたり、大きく広げて整える区画整備事業の調整、子どもたちを対象にした施設見学会、農作業体験など、農業農村を支える幅広い活動を行っています。

庄内からは、11,000ヘクタールの水瓶、大鳥池の施設管理を紹介しています。

また、水土里ウォークでは、島を縦貫する飛島農免農道について。飛島のおすすめビュースポットと併せて紹介しています。

ネット配信は、もう少し先になりますが、庄内総合支庁ロビー等には、本日から設置いたします。
ご覧ください。

平成29年度は本日まで。
庄内農業農村整備の「旬」情報をお届けしてきたNN REIKO 3代目は、今回で500回となりました。
ご覧いただいている皆さまから、たくさんの声をいただき、それを励みにがんばることができました。
ご愛読いただき、感謝申し上げます。
ありがとうございました。

これを節目に、平成30年度は当課HPをリニューアルしていきます。
当面、HPは工事中の状態となりますので、ご承知おきください。
ではまた、当課HPでお会いしましょう。